福部村埋蔵文化財調査報告書第15集

TOTTORIKEN IWAMIGUN FUKUBESON
鳥取県岩美郡福部村

SONNAI I SEKI
村内遺跡発掘調査報告書

SIRAZIGAYAMA・AKAGODANI SYOZAI I SEKI
（白路ヶ山・赤子谷所在遺跡）

2004

福部村教育委員会

村内遺跡発掘調査報告書
二〇〇四
鳥取県岩美郡福部村教育委員会

序　　文

福部村には、縄文時代から人々が力強く生活を営んだ痕跡が数多く残されており、近年の発掘調査ではその実態が徐々に解き明かされ、数多くの貴重な資料が報告されています。これらの報告では、県下でも数少ない縄文時代の遺跡から江戸時代に至るものまで詳細な報告がなされており、福部村一帯が衣食住に恵まれた定住しやすい環境にあった事をうかがわせています。

特に縄文時代の研究者から注目を集めた「栗谷遺跡」の発掘調査では、膨大な縄文土器などの出土遺物とともに縄文時代の加工技術の高さをうかがわせる木製杓子が発見され、多くの出土品と共に重要文化財に指定されています。

この調査を契機に村内に所在する遺跡の重要性が再認識され、遺跡の保護活動と併せて歴史資料館が設置され、村内外の人々にご覧いただく機会ができたことを感謝しています。

今回報告は、県内でも古くから知られ、縄文時代の重要な遺跡として認識されていた直浪遺跡に隣接する丘陵部を調査したもので、縄文時代以降も湖畔の周辺に生活の基盤があったことを暗示しているものと思います。

このような調査の積み重ねが、近年の頻度の高い開発から埋蔵文化財を保護し、先人から私たち現代人が継承した文化を検証する基礎となることについて意義深いものを感じています。

終わりに、今回の発掘調査事業を実施するにあたり、鳥取県教育委員会をはじめ、関係各位の多大なるご指導、ご協力に対し深甚なる感謝を捧げるとともに、発掘調査地の地権者と調査に従事していただいた皆様に対し厚く御礼申し上げ、発刊のご挨拶といたします。

平成16年3月

福部村教育委員会
教育長　**老　門　辰　生**

例　　言

1．本書は、福部村教育委員会が調査主体となり、2003（平成15）年度に国・県の補助を受けて試掘調査を実施した「村内遺跡発掘調査報告書」である。

2．発掘調査の対象となった村内遺跡は、鳥取県岩美郡福部村大字湯山（ゆやま）字白路ヶ山（しろこがやま）、同村大字高江（たかえ）字赤子谷（あかこだに）に所在する。

3．発掘調査の体制は下記のとおりである。　　敬称略

調査団長	老門辰生	福部村教育委員会教育長
調査指導	鳥取県教育委員会	
調査員	谷岡陽一	福部村教育委員会発掘調査員
作業員	田中　勇　西村勇人　細川寿昭　山根徳之　山根悦子	
整理作業員	谷本容子　平木雪枝	
事務担当	北村重政	福部村教育委員会社会教育係長

4．本書に使用した挿図の方位は磁北であり、標高は東京湾潮位を基準としている。

5．本書に掲載した挿図3の地形図は、「国土交通省鳥取河川国道事務所」から提供していただいた駟馳山地区平面図1000分の1を縮小複製したもので、挿図17.の地形図は、「(財)鳥取県建設技術センター」から提供していただいた地形測量図500分の1を縮小複製したものである。

6．本書の執筆編集は、鳥取県教育委員会の指導のもとに谷岡陽一が行った。

7．出土遺物・図面・写真等の整理は、鳥取県埋蔵文化財センターの指導のもとで調査員が行った。

8．出土遺物・実測図等は福部村教育委員会で保管している。

9．出土遺物には、〔例：SGY 03-IT-3層（白路ヶ山遺跡－遺物番号）〕をネーミングしている。

10．発掘調査及び本報告書の刊行に際し、次の方々からご指導、ご援助をいただいた。銘記して感謝申し上げます。

前田章吾（国土交通省鳥取河川国道事務所）　田中弘道（鳥取県埋蔵文化財センター）
中原　斉（鳥取県教育委員会事務局文化課）　原田雅弘（鳥取県教育委員会事務局文化課）
井手野　憲雄（隣接土地所有者）

目　　次

序　　文
例　　言
本文目次・挿図目次・図版目次
第Ⅰ章　調査に至る経緯……1
　第1節　調査の経緯……1
　第2節　調査の経過……1
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境……2
　第1節　遺跡の位置と自然的環境……2
　第2節　歴史的環境……3
第Ⅲ章　白路ヶ山とその周辺……6
第Ⅳ章　発掘調査の概要……8
　第1節　発掘調査の概要……8
　第2節　第1トレンチの調査……8
　第3節　第2トレンチの調査……8
　第4節　第3トレンチの調査……9
　第5節　第4トレンチの調査……9
　第6節　第5トレンチの調査……9
　第7節　第6・7トレンチの調査……13
　第8節　第8トレンチの調査……13
　第9節　第9トレンチの調査……13
　第10節　第10トレンチの調査……13
　第11節　第11トレンチの調査……15
　第12節　第12トレンチの調査……15
　第13節　第13トレンチの調査……15
　第14節　赤子谷地区の概要……16
第Ⅴ章　出土遺物……17
第Ⅵ章　村内遺跡発掘調査の成果……19
報告書抄録……21
図　版

挿　図　目　次

挿図1．福部村位置図……2
挿図2．福部村内遺跡分布図……4
挿図3．白路ヶ山地区発掘調査トレンチ配置図…7
挿図4．第2トレンチ土層断面図……10
挿図5．第2トレンチ土層断面図……11
挿図6．第1トレンチ土層断面図……12
挿図7．第3トレンチ土層断面図……12
挿図8．第4トレンチ土層断面図……12
挿図9．第5トレンチ土層断面図……12
挿図10．第8トレンチ土層断面図……13
挿図11．第6トレンチ土層断面図……14
挿図12．第9トレンチ土層断面図……14
挿図13．第10トレンチ土層断面図……14
挿図14．第13トレンチ土層断面図……14
挿図15．第11トレンチ土層断面図……15
挿図16．第12トレンチ土層断面図……15
挿図17．赤子谷地区発掘調査トレンチ配置図……16
挿図18．古墳時代以降の土器……17
挿図19．石器……18

図　版　目　次

〔白路ヶ山地区〕
図版1．調査地周辺の空中写真（下が北）
図版2．①調査地遠景（南から）
　②露出している縁山古墳群の蓋石
　③発掘調査作業風景
　④第1トレンチ完掘状況（北から）
図版3．①第2トレンチ完掘状況（西から）
　②第2トレンチ北土層断面（北周溝）
　③第2トレンチ東土層断面（東周溝）
　④第2トレンチ遺物検出状況（東周溝）
図版4．①第3トレンチ完掘状況（南から）
　②第4トレンチ完掘状況（東から）
　③第5トレンチ完掘状況（北から）
　④第6トレンチ完掘状況（北から）
図版5．①第8トレンチ完掘状況（西から）
　②第12トレンチ完掘状況（西から）
　③古墳時代以降の土器
　④打製石斧

〔赤子谷地区〕
図版6．①調査地遠景（南から）
　②第1トレンチ完掘状況（東から）
　③第2トレンチ完掘状況（東から）
　④第3トレンチ完掘状況（南から）

第Ⅰ章　調査に至る経緯

第１節　調査の経緯

【白路ヶ山地区】

交通体系は文化のバロメーターとも言われ、「車」は現代人にとって今や欠くことのできない交通の手段となっており、国・地方自治体では道路網の整備を重要な課題として取り組んでいる。そんなおり国土交通省鳥取河川国道事務所では、山陰地方の動脈となっている「国道９号駟馳山バイパス工事」を計画した。

同計画は、現在福部村湯山まで供用開始している国道９号鳥取バイパスを更に延長して、本村東端の駟馳山をトンネルで貫通し、隣町の岩美町まで至る延長6.6㎞の「駟馳山バイパス」となるものである。

国土交通省鳥取河川国道事務所は、この計画路線内に所在する埋蔵文化財の有無について、福部村教育委員会に協議依頼書を提出した。

協議の結果、福部村教育委員会が調査主体となり、平成10年度調査で未確認となっている直浪遺跡の東端部及び縁山古墳群が所在する丘陵梨園地内の試掘調査を実施している。その結果、直浪遺跡の東端部を確認し、縁山地区では調査承諾の得られなかった丘陵頂部の梨園内を除く３カ所の試掘トレンチ調査では遺構、遺物ともに検出されなかったことが報告されている。[註1]

今回の発掘調査は、福部村教育委員会が国・県の補助を受け、前述の発掘調査で調査承諾の得られなかった丘陵頂部を用地買収後にこの頂部を中心とする詳細な試掘調査を実施することになった。

【赤子谷地区】

戦後の高度成長とともに多くの「もの」が作られ、或いは建設され、壊されては廃棄を繰り返し、地域の振興発展のためには、適正な処理による廃棄も必要不可欠なものとして、その対応が急務となっている。

そんな折り、(財)鳥取県建設技術センターから大字高江字赤子谷地区に建設残土処分場を計画するにあたり、同地内の埋蔵文化財の有無について協議依頼があった。当計画では、狭長の赤子谷地区5,321haに406,000㎥の建設残土を処分するというものである。

協議の結果、当地区の北丘陵に８基の古墳が所在していること、当計画地内で土師器片、須恵器片が表採されたことから、福部村教育委員会が国・県の補助を受けて試掘調査を実施し、遺構、遺物の有無を確認することになった。

第２節　調査の経過

現地調査は、５月20日から20日間の予定で着手し、同期間内に白路ヶ山地区と赤子谷地区を併行しての試掘調査を実施することになった。調査期間後半に梅雨入りし、現地調査をしばしばに中断することになったが、調査日数としては、ほぼ予定どおりの進捗状況を見せ、９月16日で現地調査を完了し、翌年３月19日で室内整理作業を完了した。

註１　福部村教育委員会『村内遺跡発掘調査報告書』2001

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の位置と自然的環境

福部村は鳥取県の東部で、東経134度14分～東経134度20分、北緯35度29分～北緯35度34分の間に位置している。北は日本海に面し、東は日本海に突出した独立峯のような駟馳山山頂から、南に延びる立岩山山系の分水界で岩美町に接している。西は国の天然記念物に指定されている鳥取砂丘から摩尼山山系の分水界で鳥取市に接し、更に南東の稲葉山に至り、稜線を縦貫する村道宇倍野線を界して国府町に接している。

この東・西・南の三方を各山系に囲まれた内陸は、日本海沿岸に発達した砂丘が湾口を閉ざし、沖積平野となって、東西約９km、南北約10km、総面積34.94km²で、日本海に開けたＶ字形を呈する小盆地地形が形成されている。

村内には、鳥取県の縄文遺跡を代表する「直浪遺跡（3）」・「栗谷遺跡（4）」をはじめ、16遺跡と220基を越える古墳が周知の遺跡として確認されている。その大半は1976（昭和51）年に鳥取県教育委員会と福部村教育委員会によって行われた遺跡分布調査と、1993～1995（平成５・６）年度の福部村教育委員会による「村内遺跡発掘調査事業」を契機に遺跡台帳が整備され、新発見の都度追加登録がなされている。

遺跡と密接な関係を持つ河川は、鳥取市、岩美町、国府町との境を接する「上野山」（標高390m）を主峰に分水界となって本流の塩見川を形成し、摩尼山山系の山麓を水源とする箭渓川、同じく摩尼山山系山麓の水源と湯山池周辺の湧水を水源とする江川の３河川が主要河川で２級河川に指定されている。この３河川は、前述の沢と呼ばれる細川田圃の湿田部で合流し、鳥取砂丘の東端を蛇行して河口へ注いでいる。

気候的には、比較的に温暖で過ごしやすいが、年間降水量は1970mm前後と、山陰方面に比較するとかなり多く、冬季には平野部で50cmを越す積雪を見ることがある。

直浪遺跡は、日本海沿岸の東西に細長く延びる国立公園鳥取砂丘に包括される福部砂丘の南端後背地に位置し、遺跡の中心部と推定されているこの付近は、緩斜面を削平して低段丘上に畑地が区画され、果樹と蔬菜が栽培されている。

遺跡の南方に広がる旧湯山池は、江戸時代から度々干拓が行われ対岸の摩尼山山系から幾重にも延びる丘陵先端部には、数多くの古墳が存在し、県東部の湖山池、県中部の東郷池のように、湖畔に突き出た丘陵上に多く古墳群が築造されている形態とも共通している。

挿図１．福部村位置図

直浪遺跡の南東対岸には、立岩山の麓に鳥取県指定の天然記念物「坂谷神社社叢」が所在している。この緑一色に染まった社叢林は、高木層にスダジイの巨木をはじめ、ヤマツバキ・カゴノキ、亜高木層にモチノキ・サカキ・シロダモ、低木層にゴンズイ・ヌルデ・

コショウノキ、草本類にホシダ・オニヤブソテツ・イワタケソウ・クリハランなどが代表される植物で、南限・北限として知られる多種類の植物が混生し、県内でも例の少ない照葉樹林帯である。

小渓谷の坂谷神社社叢の南方約500mには、縄文時代中後期を主体とする栗谷遺跡が所在し、近年の発掘調査では、多種多様な遺物が出土したことから注目されている。塩見川を介した対岸約200mの通称「蔵の山」と呼ばれている丘陵尾根の先端部一帯は、本村で最も密度の高い約60基の古墳が展開し、「箭渓古墳群」の中核となっている。

この塩見川上流約２kmには、南限の植物とされているクリハランなどの貴重な植物の宝庫として保護されている標高約80mの「南田神社」の社叢が小さな独立峯のような風情を見せている。

この福部の地に、人の生活が営まれ始めたと推定される縄文時代前期は、いわゆる縄文海進によって現在の平野部の大半が日本海に没する入り海若しくは、島根県の宍道湖のように海水と淡水が交じり合う汽水湖であったと考えられている。人々はこの福部の地一帯をテリトリーとして、狩猟、採集、魚捞を糧とする生活を送っていたものと考えられ、容易に食糧を求めることができる永住しやすい地域であったものと推定される。しかし、直浪遺跡と栗谷遺跡が近接しながら双方の遺跡ともに縄文時代・弥生時代・古墳時代と永期にわたり、同じ場所での生活が営まれていることは、この外海に通ずる入り江を拠点とした舟による海上交易の利便性も大きな要因を占めていたものと思われる。

註１　福部村教育委員会『福部村内遺跡発掘調査報告書』1995
註２　福部村『福部村誌』1941

第２節　歴史的環境

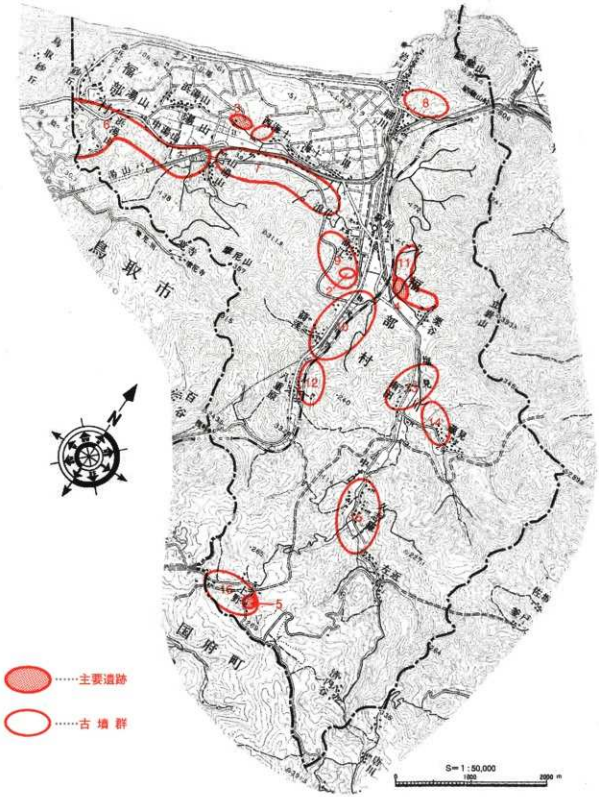
福部村内では、旧石器時代の遺跡・遺物は発見されていないが、鳥取県東部に分布する縄文時代の遺跡では、早期の押型文土器が出土している鹿野町の柄杓目遺跡が早期の遺跡で、栗谷遺跡等が次に続く前期からの遺跡として確認されている。栗谷遺跡の発掘調査では、ドングリ・クルミ、トチの実などを貯蔵した37基の貯蔵穴群と土器・石器の他、木器・網代編みの籠・もじり編み技法による網などが低湿地遺跡特有の良好な遺存状態で検出されている。これら多様な出土遺物は、縄文時代の生活様式を知ることのできる貴重な資料として平成６年に『重要文化財』に指定されている。

近隣では、福部砂丘に境を接する鳥取市の浜坂砂丘地の中で「浜坂追後遺跡」・「長者ケ庭遺跡」・「栃木山遺跡」が縄文時代の遺物散布地として知られている。この他湖山池の南岸に所在する「布勢遺跡」では、土器・石器・木器などが多量に検出され、更に西方に隣接する「桂見遺跡」では、平成５年の発掘調査で縄文時代後期の丸木舟が出土しているが、現存するものとしては国内最大級のものである。

因幡地方で確認されている縄文時代の主要遺跡は、そのほとんどが湖岸のような水辺に近い場所を拠点とするものであったが、近年の調査で岡山県境に境を接する山間地の智頭枕田遺跡で大規模な集落遺跡の存在が明らかになっている。

弥生時代になると稲作が普及し、種々の石器の他に金属器の使用が始まり、隣接する岩美町新井の丘陵部では流水文銅鐸が出土し、浜坂砂丘や湖山砂丘では、銅鏃・鉄鏃が発見されている。

縄文時代に人々が定住した栗谷・直浪の両遺跡でも弥生時代の人々が継続して生活していたことが土器・石器などから明らかとなっており、塩見川の源流である上野山台地（標高250m）では、畑地の開墾時に弥生時代中期の土器・扁平片刃石斧などが採取されて「上野遺跡（5）」の存在が確認されている。



挿図2．福部村内遺跡分布図

1．縁山古墳群　2．赤子谷所在遺跡　3．直浪遺跡　4．栗谷遺跡　5．上野遺跡
6．湯山古墳群　7．海士古墳群　8．細川古墳群　9．高江古墳群　10．箭渓古墳群
11．栗谷古墳群　12．八重原古墳群　13．南田古墳群　14．蔵見古墳群　15．久志羅古墳群
16．上野山古墳群

上野遺跡はその立地条件から、低地に所在する梨谷遺跡、直浪遺跡とは異なった高地性集落遺跡としての検討も必要があると思われる。

次の古墳時代へ移行すると、共同体の高い地位にあった者の死にあたって、壮大な高塚を築き、多くの副葬品と共に手厚く埋葬する風習が広まる。ここ因幡地方にも畿内的な様相をおびた大型の古墳が築造されている。村内でも古くから小規模ながら数多く古墳が確認されており、200基を越える古墳が12群にまとめられている。墳丘の形態は前方後円墳・方墳・円墳・横穴と多形式に渡るが、その大半はラグーンを見下ろす丘陵の尾根に分布しており、後期古墳に見られる横穴式石室は、平野部から山間部に分布する特徴を示している。

村内における古墳の発掘調査は、その大半が開発行為に伴う調査であり、「湯山6号墳」では小札（こざね）を綜（ひいらぎ）の葉状にカットした特異な「小札鉄留眉庇付冑」、「三角板革綴短甲」、「鉄刀」、「鉄鏃」等の武具がセットで副葬されていた。[1] また「蔵見3号墳」では、全国的に類例の少ない変形八角形の平面プランを持つ墳丘と、因幡地方に多く分布する中高式天井石室型式の横穴式石室で、類例の無い鳥尾付陶棺が検出されている。[2]

遺跡の発掘調査例では、直浪遺跡の丘陵台地で採砂作業中の工事関係者によって「柱穴群」が発見され、発掘調査の結果、5世紀から6世紀に渡り継続的に居住したと推定される竪穴式住居跡（1棟）・掘立柱状建築遺構（3棟）を検出している。[3][4] 尚、この遺構は、調査終了後埋戻されて現在も保存されている。

古代に律令制が確立された時期には、福部村一帯は、因幡国法美郡服部郷に属しており、海士と八重原には、式内社があった。隣町の岩美町では国の史跡指定となっている白鳳期の岩井廃寺塔跡も遺存し、上野山を越した国府町中郷には因幡の国府が置かれていた。以後この国府町一帯が政治・経済・文化が交流する中心地として繁栄して行き、奈良時代の官立寺院である金光明四天王護国之寺（国分僧寺）、法華滅罪之寺（国分尼寺）が建立されている。

本村には、この時代を特徴付ける出土品は極めて少いが、箭渓の墓地で墓穴を掘り下げ中に土師質の「経筒」が出土している。この経筒は、上部がやや広がった高さ24cmの円筒形を呈し、蓋の中心部はキュービー人形の頭のような特徴ある突起状のつまみを有しており、鳥取県立博物館に所蔵されている。[5]

註1．福部村教育委員会『梨谷遺跡発掘調査報告書Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』1989・1990
註2．福部村教育委員会『湯山6号墳発掘調査報告書』1978
註3．福部村教育委員会『蔵見古墳群発掘調査報告書』1997
註4．福部村教育委員会『直浪遺跡発掘調査報告書』1976
註5．鳥取県埋蔵文化財センター『歴史時代の鳥取県』鳥取県埋蔵文化財シリーズ4．1989

第Ⅲ章　白路ヶ山とその周辺

白路ヶ山は、鳥取砂丘の後背地で標高25m程度の小丘陵で、丘陵の北面は砂丘が厚く堆積し、南側はラグーンの名残である湯山池が広がっている。東は大字海士(あま)の集落が形成され、西は縄文時代中期を主体とする直浪遺跡に隣接している。

直浪遺跡は、昭和21年の湯山池の干拓工事に際し、埋土として砂丘の採砂工事が行われて、多量の縄文土器・石器が発見されたことから遺跡の存在が明らかとなっている。

この地がかつては不毛の地と云われていたが、厚く堆積した砂丘の下層に遺跡の所在が明らかとなり、これを契機に砂丘遺跡の研究とその重要性が認識されて、昭和30年に「福部村教育委員会による遺跡の保存研究調査」が行われ、昭和42年には「帝塚山大学考古学研究室による発掘調査」が行われている。更に、昭和51年には西の段丘状の丘陵上で、古墳時代後期の柱穴群が発見され、「福部村教育委員会による緊急発掘調査」、昭和56年には「文化庁による遺跡保存方法の検討調査」が行われている。

最近の調査では、平成５年、平成10年に福部村教育委員会が直浪遺跡の性格とその範囲を求めることを主目的に、国、県の補助を受けて試掘調査を実施し、出土遺物の状況から遺跡の南端、西端を確認している。

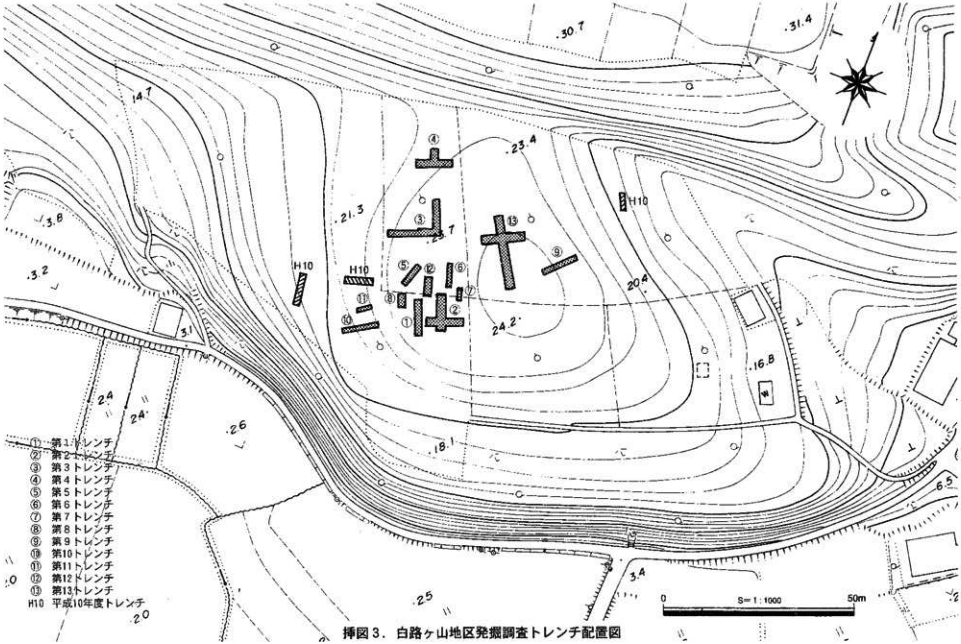
この６次に渡る発掘調査では、縄文時代中期を主体とする土器、石器、弥生時代の土器、石器、古墳時代以降の遺物が多量に出土している。しかし、縄文時代、弥生時代の出土遺物包含層を確認しているものの、人の営みを直接的に結び付ける遺構等が検出されないことから、遺跡の主体となる住居跡等は、北に厚く堆積した砂丘下に所在する可能性が報告されている。

発掘調査	調査年度	調査目的	調査主体	発掘調査報告書等
第１次調査	昭和30年	遺跡の保存研究調査	福部村教育委員会	直浪遺跡発掘調査報告(予報)　1956
第２次調査	昭和42年	学術調査	帝塚山大学	
第３次調査	昭和51年	柱穴群の緊急調査	福部村教育委員会	直浪遺跡発掘調査報告書　1976
第４次調査	昭和56年	遺跡保存方法の検討調査	文化庁	遺跡保存方法の検討 －砂地遺跡－1981
第５次調査	平成５年	福部村内遺跡発掘調査	福部村教育委員会	福部村内遺跡発掘調査報告書　1995
第６次調査	平成10年	福部村内遺跡発掘調査	福部村教育委員会	村内遺跡発掘調査報告書　1998

挿表１．直浪遺跡発掘調査歴

参考文献

福部村教育委員会『直浪遺跡発掘調査報告書』(予報)　1956
福部村教育委員会『直浪遺跡発掘調査報告書』　1976
文化庁『遺跡保存方法の検討』－砂地遺跡－　1983
福部村『新編福部村誌』－原始－　2000



挿図3．白路ヶ山地区発掘調査トレンチ配置図

第Ⅳ章　発掘調査の概要

【白路ヶ山】

第１節　発掘調査の概要

第６次にわたる直浪遺跡の発掘調査の目的は種々であるが、遺跡の性格とその範囲を特定する多くの資料が提供されている。しかし、遺跡の所在が国立公園内に包含されていること、厚い砂丘下に所在する遺跡であることから、詳細な遺跡の性格とその範囲を特定することに限界のあることも事実である。

直浪遺跡の東方に隣接し今回の調査区となる白路ヶ山は、通称「縁山（えんのやま）」と呼ばれる低丘陵地で、一帯では梨園が耕作されており、昭和30年に３基の古墳が農作業中の耕作者によって発見されている。この古墳は、鳥取大学学芸学部歴史学研究会の学生によって発掘調査が行われ、主体部の内部に限定した調査が行われた後、埋め戻されて縁山１～３号墳として登録されている。調査の結果棺内からは、人骨と共に須恵器の高坏・蓋坏、鉄刀、刀子、鉄鏃、鉄斧が副葬品として出土したことが報告（[1]）されている。しかし、鳥取大学の図書館に保管されている２号墳出土の鉄刀１点以外は所在不明となっている。

白路ヶ山の現況は、丘陵南西の突端部に石棺と確認できる古墳の蓋石が露出し、主体部１基が所在しているが、梨園の耕作によって著しい削平を受けており、地表観察では墳丘の外表施設等を特定することはできない。従って前述の古墳３基の内、蓋石が露出する石棺がどの古墳に該当し、残る２基が何処に所在するのかは特定できない。

今回の発掘調査は、国道９号駟馳山バイパス工事に先行しての試掘調査であるが、平成10年に実施した同目的の「村内遺跡発掘調査」では白路ヶ山地区に３カ所のトレンチを設定し、発掘調査を実施した。その結果、無遺物、無遺構であったことが報告されている。しかし、比較的平坦な緩地形を形成する梨園内の丘陵頂部について発掘調査の承諾を得ることができないまま未調査地区として残っていた。従ってこの地区の遺跡の有無等を明らかにするため、国道９号駟馳山バイパス計画路線上にトレンチを設定し、遺跡の有無、更に遺跡が確認された場合は、その範囲と性格を垂直的に求めることを目的に調査を行った。

註１　鳥取大學學藝學部歴史學研究會『鳥取縣東部に於ける古墳調査報告』－第一輯－　年月日不詳

第２節　第１トレンチの調査（挿図６　図版２）

第１トレンチは、白路ヶ山丘陵頂部で国道９号駟馳山バイパス計画路線上の南西に幅２ｍ×長さ10ｍの南北トレンチを設定し、地表下約70cmまで掘り下げて層序を確認した。

土層の基本的な層序は、上から第１層暗灰色黄色ブロック混土、第２層暗茶褐色砂炭混土、第３層暗黒灰色土、第４層暗黄褐色土である。

第１層は、層厚10cm～25cmの耕作土で無遺物層である。第２層は、層厚15cm～40cmの無遺物層である。第３層は、層厚10cm～25cmの火山灰が厚く堆積した無遺物層である。第４層は、層厚10cm～40cmの無遺物層である。

第３節　第２トレンチの調査（挿図４・５　図版３）

第２トレンチは、第１トレンチの東側に隣接して幅２ｍ、東西８ｍ・南北10ｍの十字形トレンチを設定し、地表下約170cmまで掘り下げて層序を確認した。その結果、古墳の周溝と推定される落ち込みを検出した。

土層の基本的な層序は、上から第１層暗灰色ブロック混土、第２層茶褐色土、第３層暗茶褐色土、第４層暗茶褐色砂混土、第５層明茶色土、第６層明茶褐色砂混土、第７層暗茶褐色砂炭混土、第８層暗黒灰色土、第９層暗黄褐色土、第10層黄褐色ブロック混土である。

第１層は、層厚20cm～65cmの耕作土で丘陵西が比較的薄く、頂部ほど厚く堆積している。第２層は、層厚約30cmで古墳の墓域を区画する周溝内に堆積した無遺物層の流土である。第３層は、層厚約30cmの周溝内に堆積した無遺物層の流土である。第４層は、層厚15cm～35cmの周溝内に堆積した無遺物層の流土である。第５層は、層厚20cm～35cmの周溝内に堆積した無遺物層の流土である。第６層は、層厚30cm～60cmで墳丘方向から周溝内に堆積した流土で、層中から土師器の甕片と瓦質の鍋片が検出された。第７層は、層厚約15cm～40cmでトレンチの西側の一部と墳丘方向から周溝内に堆積した無遺物層の流土であるが、土質から第６層とほぼ同時期のものと推定される。第８層は、トレンチの西側に一部堆積し、第１トレンチでも確認されている層厚約20cmの火山灰土である。第９層は古墳の墳丘の一部と考えられるもので、部分的に炭化物の混入が認められた。第10層は、黄褐色でブロックが混入した基盤層である。

第４節　第３トレンチの調査（挿図７　図版４）

第３トレンチは、丘陵尾根の頂部で第２トレンチの北側に幅２m、東西12m・南北10mのＬ字形トレンチを設定し、地表下80cmまで掘り下げて層序を確認した。更に第２トレンチで検出されている周溝の位置関係を確認するため、西方に８m延長した。

土層の基本的な層序は、上から第１層暗灰色黄色ブロック混土、第２層淡黒灰色ブロック混土、第３層黄褐色ブロック混土である。

第１層は、層厚20cm～40cmの耕作土で無遺物層である。第２層は、層厚10cm～15cmの火山灰土にブロックが混入した無遺物層である。第３層は、黄褐色でブロックが混入した基盤層である。

第５節　第４トレンチの調査（挿図８　図版４）

第４トレンチは、丘陵尾根で第３トレンチの更に北側に幅２m、東西10m・南北３mのＴ字形トレンチを設定し、地表下130cmまで掘り下げて層序を確認した。

土層の基本的な層序は、上から第１層暗灰色黄色ブロック混土、第２層茶褐色土、第３層黄褐色ブロック混土である。

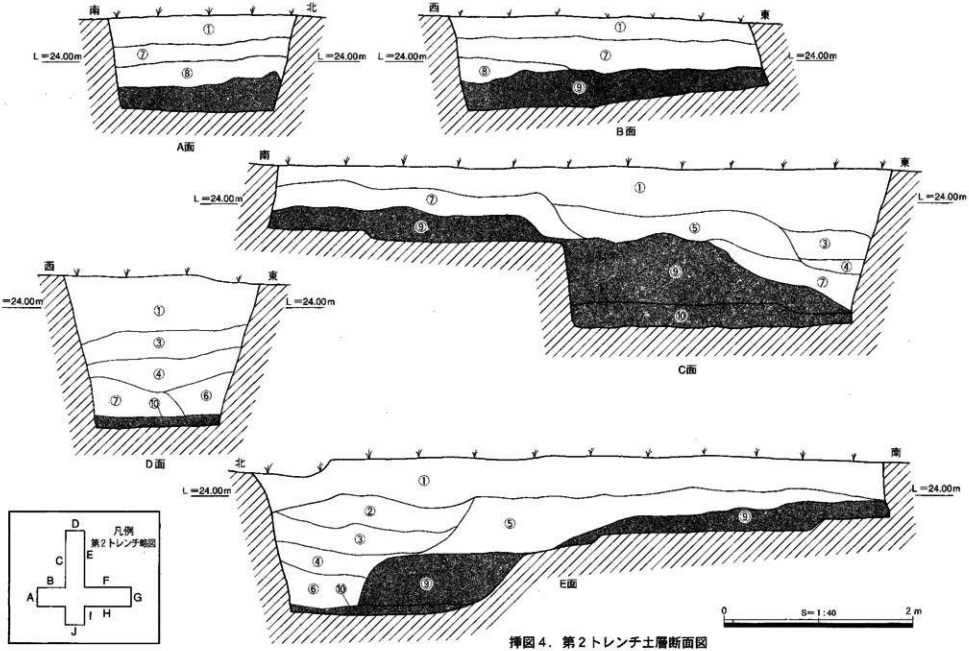
第１層は、層厚15cm～50cmの耕作土で無遺物層である。第２層は、層厚10cm～20cmの無遺物層である。第３層は、黄褐色でブロックが混入した基盤層である。

第６節　第５トレンチの調査（挿図９　図版４）

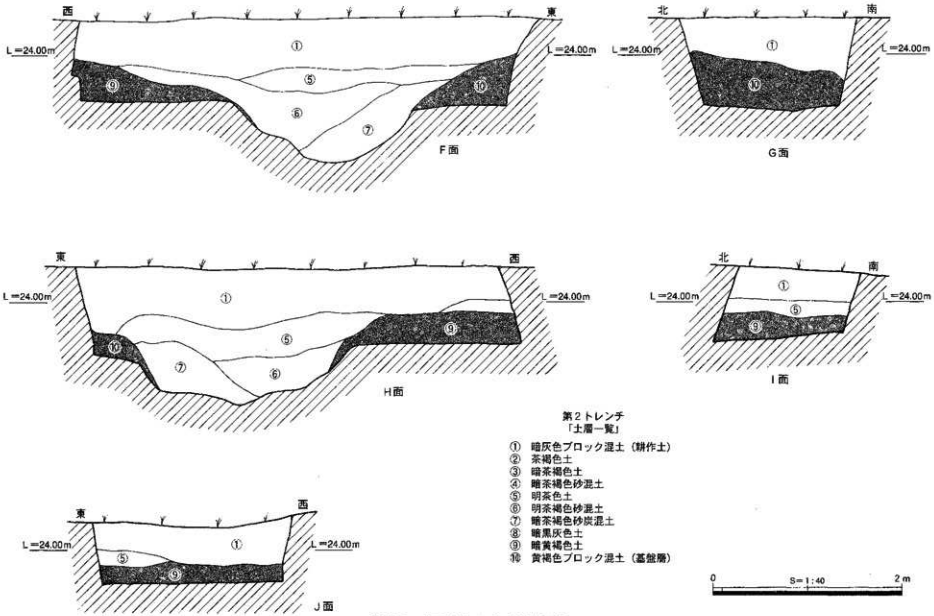
第５トレンチは、第２トレンチで検出された周溝の位置関係を確認するため、第１トレンチと第３トレンチの間に幅1.5m、長さ７mの南北トレンチを設定し、地表下90cmまで掘り下げて層序を確認した。

土層の基本的な層序は、上から第１層暗灰色黄色ブロック混土、第２層暗黒灰色土、第３層暗黄褐色土である。

第１層は、層厚25cm～40cmの耕作土である。第２層は、層厚５cm～30cmの火山灰が堆積した無遺物層である。第３層は、暗黄褐色の基盤層である。

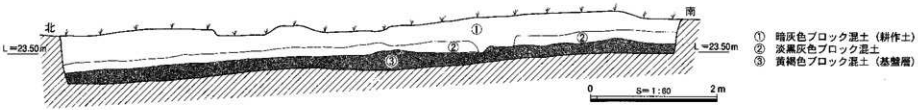


挿図4．第2トレンチ土層断面図

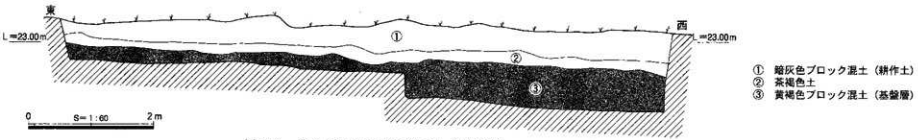


挿図5．第2トレンチ土層断面図

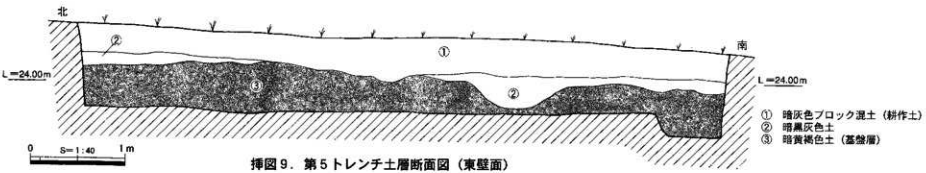
挿図6．第1トレンチ土層断面図（東壁面）



挿図7．第3トレンチ土層断面図（東壁面）



挿図8．第4トレンチ土層断面図（南壁面）



挿図9．第5トレンチ土層断面図（東壁面）

第７節　第６・７トレンチの調査（挿図11　図版４）

第６・７トレンチは、第２トレンチで検出された周溝の位置関係を確認するため、第２トレンチと第３トレンチの間の東方に設定した。第６トレンチは、幅１m、長さ７mでの南北トレンチで、第７トレンチは、第６トレンチに平行して東側に幅１m、長さ４mの南北トレンチを設定し、地表下90cmまで掘り下げて層序を確認した。

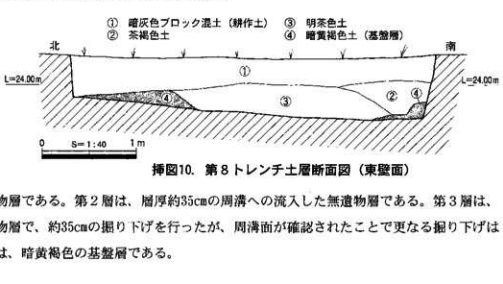
土層の基本的な層序は、上から第１層暗灰色黄色ブロック混土、第２層暗黄褐色土である。

第１層は、層厚30cm～50cmの耕作土で無遺物層である。第２層は、暗黄褐色の基盤層である。

第８節　第８トレンチの調査（挿図10　図版５）

第８トレンチは、第２トレンチで検出された周溝の位置関係を確認するため、第１トレンチと平行して西側に幅２m、長さ４mの南北トレンチを設定し、地表下60cmまで掘り下げて層序を確認した。その結果第２トレンチで検出している周溝面と同様の落ち込みを検出した。

土層の基本的な層序は、上から第１層暗灰色黄色ブロック混土、第２層茶褐色土、第３層明茶色土、第４層暗黄褐色土である。



挿図10. 第８トレンチ土層断面図（東壁面）

第１層は、層厚25cm～40cmの耕作土で無遺物層である。第２層は、層厚約35cmの周溝への流入した無遺物層である。第３層は、周溝への流入した無遺物層で、約35cmの掘り下げを行ったが、周溝面が確認されたことで更なる掘り下げは行わなかった。第４層は、暗黄褐色の基盤層である。

第９節　第９トレンチの調査（挿図12）

第９トレンチは、丘陵の東側斜面に幅1.5m、長さ10mの東西トレンチを設定し、地表下120cmまで掘り下げて層序を確認した。

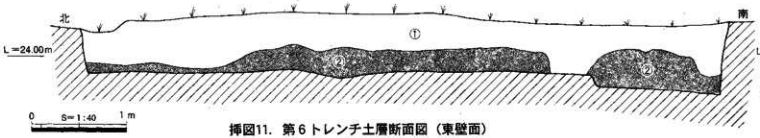
土層の基本的な層序は、上から第１層茶褐色土、第２層暗黒灰色土、第３層黄褐色ブロック混土である。

第１層は、層厚30cm～50cmの耕作土で層中から縄文時代のものと推定される打製石斧が検出されたが、耕作土中であることから、後世に近隣の直浪遺跡からの搬入されたものである可能性が高い。第２層は、層厚10cm～30cmで第１・２トレンチでも確認されている火山灰が堆積した無遺物層である。第３層は、黄褐色土にブロックが混入した基盤層である。

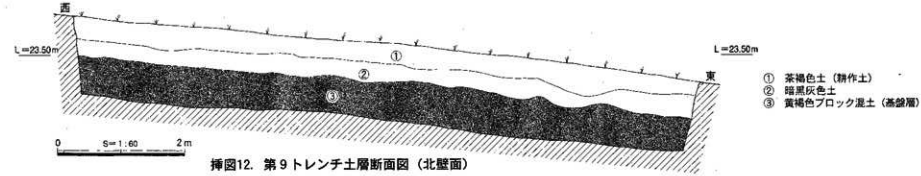
第10節　第10トレンチの調査（挿図13）

第10トレンチは、第２トレンチで検出された周溝の位置関係を確認するため、丘陵西斜面で第１トレンチの西側に幅１m、長さ10mの東西トレンチを設定し、地表下80cmまで掘り下げて層序を確認した。その結果幅狭であるが第２トレンチで検出している周溝面と同様の落ち込みが検出された。

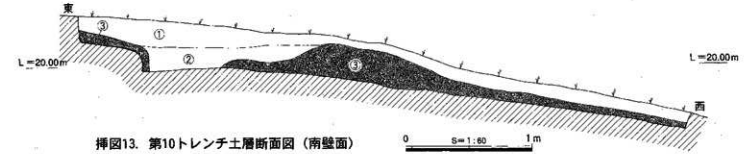
土層の基本的な層序は、上から第１層茶褐色土、第２層暗茶褐色砂炭混土、第３層黄褐色ブロック混土で



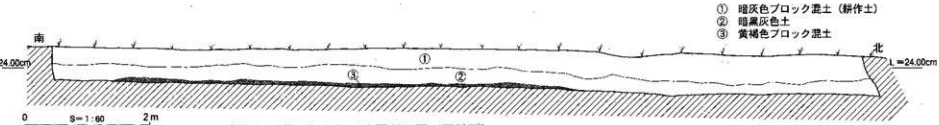
挿図11. 第６トレンチ土層断面図（東壁面）



挿図12. 第９トレンチ土層断面図（北壁面）



挿図13. 第10トレンチ土層断面図（南壁面）



挿図14. 第13トレンチ土層断面図（西壁面）

ある。

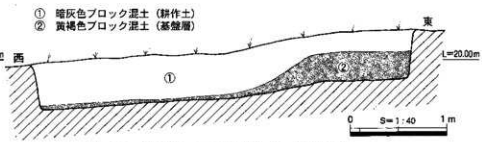
第１層は、層厚10cm～40cmの耕作上で無遺物層である。第２層は、周溝への流入した無遺物層で、約35cmの掘り下げを行ったが、周溝面が確認されたことで更なる掘り下げは行わなかった。第３層は、暗黄褐色土にブロックが混入した基盤層であった。

第11節　第11トレンチの調査（挿図15）

第11トレンチは、第２トレンチで検出された周溝の位置関係を確認するため、第10トレンチと平行して北側に幅１m、長さ４mの東西トレンチを設定し、地表下50cmまで掘り下げて層序を確認した。

土層の基本的な層序は、上から第１層暗灰色黄色ブロック混土、第２層黄褐色ブロック混土である。

第１層は、層厚20cm～45cmの耕作上で無遺物層である。第２層は、暗黄褐色土にブロックが混入した基盤層であった。

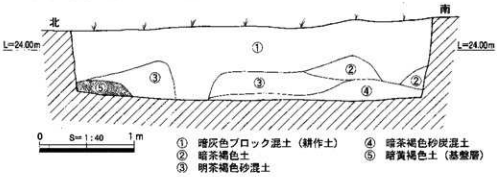


挿図15. 第11トレンチ土層断面図（東壁面）

第12節　第12トレンチの調査（挿図16　図版５）

第12トレンチは、第２トレンチで検出された周溝の位置関係を確認するため、第２トレンチの北側に隣接する幅２m、長さ４mの南北トレンチを設定し、地表下75cmまで掘り下げて層序を確認した。その結果、第２トレンチで検出している周溝面と同様の落ち込みを検出した。

土層の基本的な層序は、上から第１層暗灰色黄色ブロック混土、第２層暗茶褐色土、第３層明茶褐色砂混土、第４層暗茶褐色砂炭混土、第５層暗黄褐色土である。



挿図16. 第12トレンチ土層断面図（東壁面）

第１層は、層厚40cm～65cmの耕作土で無遺物層である。第２層は、層厚約25cmの客土で現代の廃棄物を検出した。第３・４層以下については周溝への流入した無遺物層で、約30cmの掘り下げを行ったが、周溝面が確認されたことで更なる掘り下げは行わなかった。第５層は、暗黄褐色の基盤層である。

第13節　第13トレンチの調査（挿図14）

第13トレンチは、白路ヶ山丘陵尾根の頂部に幅２m、東西12m・南北20mの十字形トレンチを設定し、地表下65cmまで掘り下げて層序を確認した。

土層の基本的な層序は、上から第１層暗灰色黄色ブロック混土、第２層暗黒灰色土、第３層黄褐色ブロッ

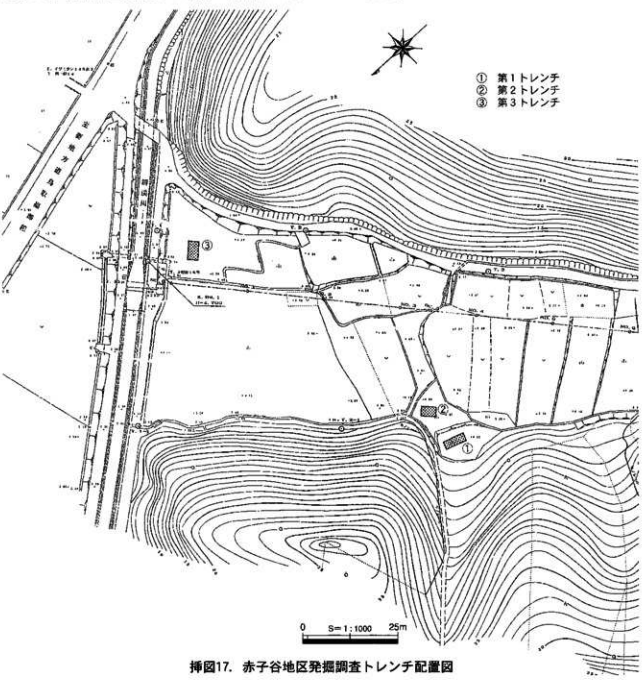
ク混土である。

第１層は、層厚20cm～45cmの耕作土で無遺物層である。第２層は、層厚10cm～30cmの火山灰が厚く堆積した無遺物層である。第３層は、黄褐色でブロックが混入した基盤層である。

【赤子谷】

第14節　赤子谷の概要（挿図17　図版６）

建設残土処分場予定地の赤子谷地区では、事前の現地踏査で古墳時代以降の土器が数点表採されていたことから、狭い渓の裾端部に５ヶ所の試掘トレンチを計画し、第１トレンチから順に基盤層まで掘り下げて調査を行った。その結果、谷の口域に位置する第１・２・３トレンチでは無遺物、無遺構であり、厚いシルト層土層が堆積していることから、遺跡は所在しないと判断し、第４トレンチ以降の掘り下げを断念し調査を終了した。試掘調査面積は、３箇所の試掘トレンチで37㎡であった。



挿図17. 赤子谷地区発掘調査トレンチ配置図

第V章　出土遺物

出土遺物

出土遺物は極めて少なく、第２トレンチで検出された古墳の周溝内で出土した土師器片、須恵器片、瓦質の鍋片と第９トレンチの表土中で検出された打製石斧である。

【古墳時代以降の土器】

１．土師器・瓦質土器（挿図18　図版５）

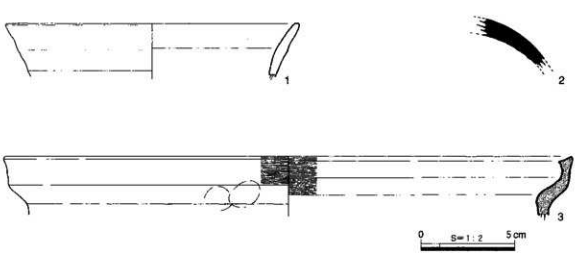
出土している遺物は、第２トレンチから出土したもので、古墳の周溝内に堆積している第６層から検出されたものであるが、周溝底面で検出されたものではなく、２次堆積の様相を呈する層中からの出土遺物である。また、検出された遺物は細片となっていることから、本報告ではその部位と器形が特定できる遺物について外観し、報告の責を果たすこととする。

（1）は口縁が大きく開いて端部がやや外反する甕形土器の口縁である。口縁はつまみ出すようにして端部をつくりだしている。内外面共にヨコナデ、胎土は0.3程度の砂粒が少量混入し、焼成はやや不良で黄赤色を呈している。

（2）は瓦質の鍋である。口縁部はやや開いた体部から更に外反して口縁部で段が付き端部は肥厚して口縁中央部が窪む。内外面ともに刷毛目調整、外面にユビオサエが認められる。胎土は0.5程度の砂粒が少量混入し、焼成は良、内面は明灰色、外面は暗灰色で、断面は淡い灰色を呈している。奈良時代から平安時代のものである。

２．須恵器（挿図18　図版５）

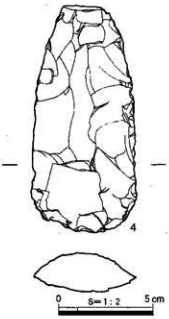
（3）は須恵器片で内面はヘラ削り、外面にナデ調整が施されていることから坏の蓋または身と思われる部位で、胎土は緻密、焼成はやや不良、内外面共に明灰色で、断面は濃肌色を呈している。



挿図18. 古墳時代以降の土器

【石　器】

打製石斧（挿図19　図版５）



挿図19. 打製石斧

石器は第９トレンチで検出された打製石斧が１点であるが、表土中での検出であることから、近接する直浪遺跡からの搬入品である可能性が高く、今回の調査区域に縄文時代の遺跡が存在する可能性を示唆するものではない。

打製石斧（４）は、縄文時代のものと思われる撥形の安山岩で裏面に自然面を残す。表面の調整は丁寧であり、形態は整っているが、自然面を残すことから未製品と考えられる。

第VI章　村内遺跡発掘調査の成果

今回の発掘調査は、国道９号駟馳山バイパス建設予定地と、建設残土処分場予定地の試掘調査である。

〔白路ヶ山地区〕

大字湯山字白路ヶ山は直浪遺跡の東方に近接し、通称「緑山（さんのやま）」と呼ばれる低丘陵地で、一帯には鳥取県特産の梨園が古くから耕作されている。

この白路ヶ山地区では、昭和30・31年に農作業中の地権者によって３基の石棺が発見され、埋葬主体部のみに限定した発掘調査が行われている。この古墳は調査の後、緑山１～３号墳として登録されて再び埋め戻されている。この調査報告（ほうこく）では、３基の古墳の位置関係を示す資料の記載がないことから、どの古墳かは特定できないが、梨園の丘陵南西端部に露出する古墳１基の蓋石が確認できる。しかし、現況は梨園であることから著しい削平を受けており、地表観察では残り２基の古墳はその位置を特定することはできない。

試掘調査

調査は、緩やかな丘陵頂部の梨園内に13箇所の試掘トレンチを設定し、基盤層まで掘りさげて遺構、遺物の有無を確認した。その結果、丘陵頂部先端付近の試掘トレンチで溝状遺構を検出し、この遺構が円形に巡ること。位置の特定はできないが、この遺構の所在地から南へ緩やかに下降した梨園内に前述の３基の古墳が所在すると、耕作者からの証言が得られたことから、緑山古墳群に所属する４基目の古墳の周溝になるものと判断された。しかし、試掘トレンチの範囲内という制約下での検出であることから、墳丘形態の特定には至っていない。

古墳の周溝が検出された以外のトレンチでは、施肥による窪地が点在する外は、ほぼ安定した堆積を示しており、今回の調査区には古墳１基が所在するのみであることが確認され、国道９号駟馳山バイパスの建設については、緑山４号墳の保護に向けての更なる協議が望まれる。

出土遺物

出土遺物は、第２トレンチで検出した古墳の周溝内で出土した上師質の甕(1)と瓦質の鍋(2)、須恵器片(3)、第９トレンチの表土中から検出された打製石斧(4)の各１点である。

第２トレンチで検出された古墳の周溝に堆積した流入土中から検出された甕片(1)、鍋片(2)はその形態と特徴から平安時代から鎌倉時代のもと考えられる。須恵器片(3)は内面にヘラ削りが施されていることから坏の蓋または、身と思われるが、小片であるため、時期を特定することはできない。

石斧(4)は、撥形の形態で縄文時代の打製石斧と推定されるが、表土中からの検出であることから、後世に近接する直浪遺跡から搬入されたものである可能性が高い。

まとめ

今回の発掘調査では古墳１基が確認され、周溝内への流入土中から平安時代～鎌倉時代の上師質の甕片と瓦質の鍋片が検出されている。しかし、周溝底面からの検出ではなく堆積土中からの検出であり、墳丘上から転落した供献土器のように築造時期に直接的に結びつくものではなく、築造後に人の営みのあった時期を示すものである。したがって、古墳の築造時期を特定できる資料にはならない。

緑山１・２号墳の発掘調査報告では、緑山１号墳から須恵器の坏身４点・坏蓋４点、鉄鏃３点、人骨（脚部）１片が出土している。緑山２号墳では須恵器の高坏１点、須恵器の坏身１点・坏蓋２点、鉄刀２点、刀

子２点、鉄鏃３点、鉄斧１点、人骨１体の出土が報告されている。同報告ではこれらの出土遺物から１号墳～２号墳共に古墳時代後期前半あたの築造としているが、残念なことに縁山２号墳から出土した鉄刀１点以外は所在不明となっている。

縁山４号墳が同古墳群を構成する４基の内の１基と考えた場合、縁山１～３号墳の所在地に極めて隣接しているものの、築造にあたっての切り合い関係は認められない。したがって、双方の墳丘を意識して計画的に築造された古墳群の可能性があり、縁山４号墳もほぼ同時期に築造された古墳である可能性が高い。

註１　鳥取大學學藝學部歴史學研究會『鳥取縣東部に於ける古墳調査報告』第一輯　年月日不詳
註２　佐々木古代文化研究室『ひすい』佐々木古代文化研究室月報集（1～100号）　1965

〔赤子谷地区〕

建設残土処分場予定地の赤子谷地区では、事前の現地踏査で古墳時代以降の土器が数点表採されていたことから３箇所の試掘トレンチで37㎡の試掘調査を実施した。しかし調査の結果、全ての試掘トレンチで厚いシルト層が堆積し無遺物、無遺構であったことから遺跡は存在しないと判断された。したがって、以降の報告を略すことにするが、狭い谷の北丘陵尾根上には８基の古墳が所在していることから、周辺に住居等を伴う遺跡の存在が考えられ、その所在については、今回の調査地区を除く地区に絞り込まれたことが一応の成果であった。

報　告　書　抄　録

ふりがな	そんないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	村内遺跡発掘調査報告書
副書名	白路ヶ山・赤子谷所在遺跡
巻次	
シリーズ名	福部村埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第15集
編著者名	谷岡陽一
編集機関	福部村教育委員会
所在地	〒689－0102　鳥取県岩美郡福部村大字細川668
発行年月日	西暦　2004年3月19日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
白路ヶ山所在遺跡	鳥取県岩美郡福部村大字湯山字白路ヶ山	31033	225	35度32分49秒	134度15分48秒	20030520～20030916	251	国道9号駟馳山バイパス（試掘）
赤子谷所在遺跡	鳥取県岩美郡福部村大字高江字赤子谷	31033		35度32分22秒	134度17分12秒	20030523～20030530	37	建設残土処分（試掘）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
白路ヶ山所在遺跡	古墳	古墳時代～中世	古墳の周溝	土師器 須恵器 瓦質土器（鍋） 石斧（縄文時代の搬入品）	

図　版　編

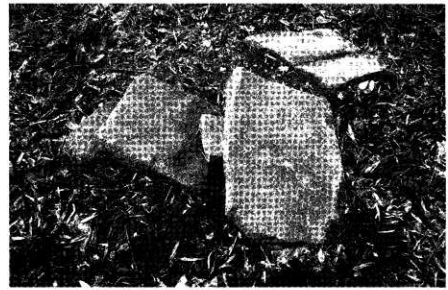
（白路ヶ山地区）

図版 1

調査地周辺の空中写真（下が北）

（白鷺ケ山地区）

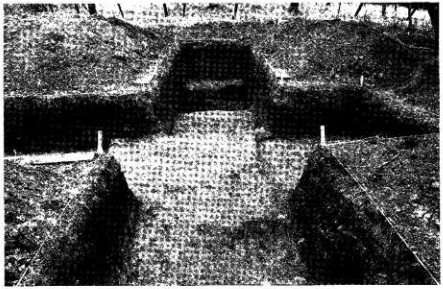
① 調査地遠景（南から）



② 露出している緑山古墳の葺石

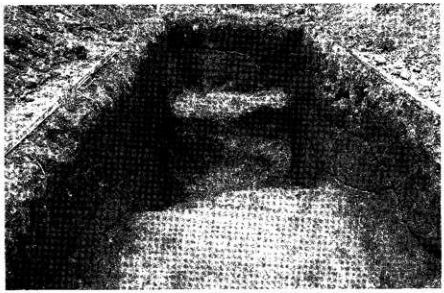
③ 発掘調査作業風景

④ 第1トレンチ完掘状況（北から）

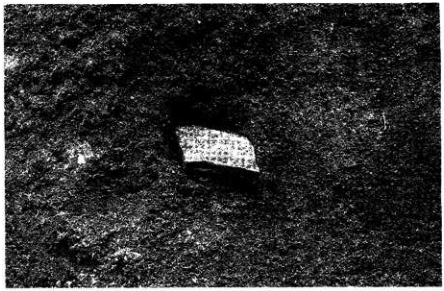


① 第2トレンチ完掘状況（西から）

② 第2トレンチ北土層断面（北周溝）

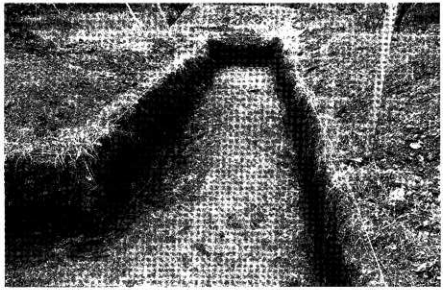


③ 第2トレンチ東土層断面（東周溝）

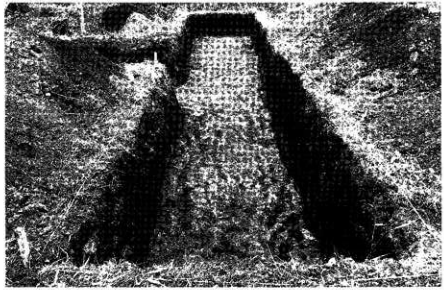


④ 第2トレンチ遺物検出状況（東周溝）

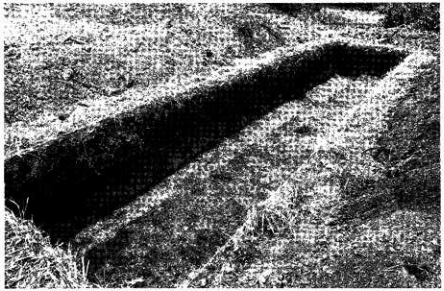
（白鷺ケ山地区）



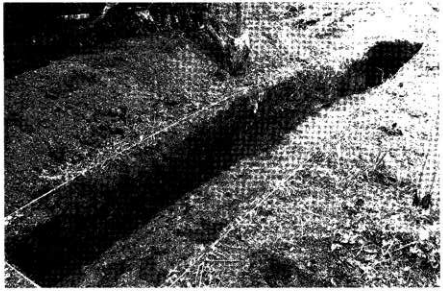
① 第3トレンチ完掘状況（南から）



② 第4トレンチ完掘状況（東から）

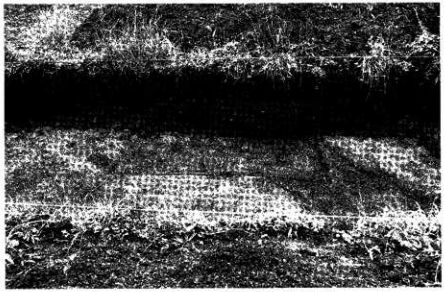


③ 第5トレンチ完掘状況（北から）

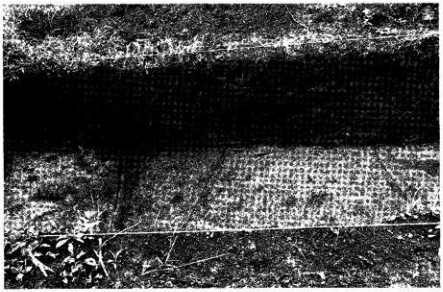


④ 第6トレンチ完掘状況（北から）

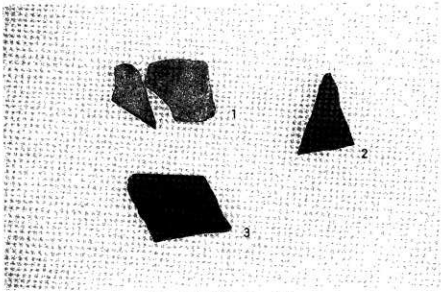
(白鷺ヶ山地区)



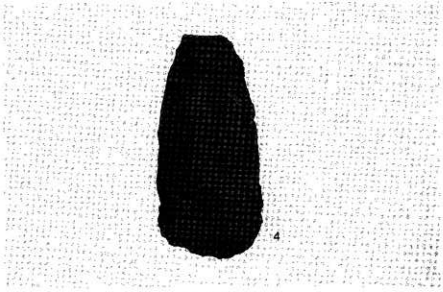
① 第8トレンチ完掘状況（西から）



② 第12トレンチ完掘状況（西から）



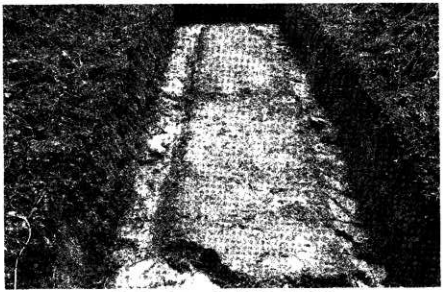
③ 古墳時代以降の土器



④ 打製石斧

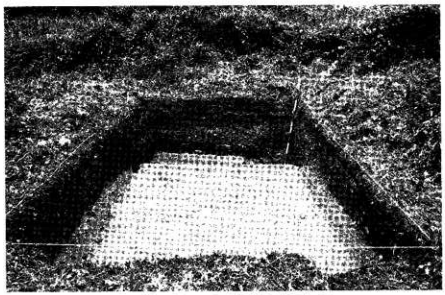
（赤子谷地区）

① 調査地遠景（南から）



② 第１トレンチ完掘状況（東から）

③ 第２トレンチ完掘状況（東から）



④ 第３トレンチ完掘状況（南から）

福部村埋蔵文化財調査報告書　第15集

村内遺跡発掘調査報告書（白路ヶ山・赤子谷所在遺跡）

平成16(2004)年3月発行

編集　福部村教育委員会
発行　〒689-0102 鳥取県岩美郡福部村湯川668
TEL (0857) 75－2816

印刷　綜合印刷出版株式会社
〒680-0022 鳥取市西町1丁目215番地
TEL (0857) 23－0031